

新しい秋の風物詩 かごつま甲突川AutumnFes

9月の連休中は、甲突川左岸・右岸緑地で「第1期 かごつま甲突川 AutumnFes」が開催され、維新ふるさと館の周辺もたくさんの人出で賑わいました。



「第3期かごつま甲突川AutumnFes」は、11月3日(木)～11月13日(日)に開催されます。キッチンカーやマルシェの出店、甲突川でのカヤック体験や遊覧船体験もあります。

爽やかな秋の風に吹かれながら、かつて、維新的英傑、西郷や大久保も同じ甲突川の河畔で、どのようなことを考えていたのだろうと想いを巡らすのも一興ですね。



温故地新

ふる故きを温ね、地元を新たに。

■是枝柳右衛門位記 寄贈

寺田屋事件の関係者は枝柳右衛門は、事件の様子を巻物として書き残しています。柳右衛門を含め、伏見寺田屋受難9烈士など12人は、明治24年(1893)に従四位を追贈されました。



去る9月16日(金)に柳右衛門の子孫である是枝秀明様からこの時の「位記」と関係書籍を寄贈いただきました。今後、寺田屋関係資料と共に展示させていただきます。

■教職員歴史講座

8月18日(木)～19日(金)に、鹿児島市勤労者交流センターと当館で「教職員歴史講座」を開催しました。

歴史講座、史跡めぐり、ドラマ鑑賞に野太刀自顯流体験

維新ふるさとショップ 新商品のご紹介



【馬場製菓】【紬ブローチ】[BARIPA]
鹿児島のお土産に最適な小物のラインナップが増えました。

【M4210】
鹿児島ならではの西郷さん
デザイン、刺繡で作られた
バッジです。

鹿児島のおみやげにプレゼントに
是非ご利用ください😊

明治維新を分かりやすく、楽しく

維新

ISHIN

2022 AUTUMN
維新ふるさと館情報紙 / No.42



殖産興業と富国を目指し
幕末維新を駆け抜けたてんがらもん

(鹿児島市泉町)

小松帶刀とともに国内で大型蒸気船の修理を行えるよう、長崎に小菅修船場を建設しました。五代が関わった小菅修船場跡と鹿児島紡績所跡に今も残る技師館(異人館)は、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっています。

明治になってからは、新政府の役人として外国官権判事と大阪府権判事を兼任し、大阪府の行政の責任者となりました。ここでは、外国商人が密貿易まがいの貿易を行うことを許さず、厳しく取り締まりました。官を辞してからは実業家として力を発揮します。鉱山開発に精力的に取り組むとともに、堂島米会所の再開、大阪株式取引所の開業、大阪商法会議所の設立などを行い、明治維新の改革によって打撃を受けた大阪の再生のために活躍しました。

「大阪の恩人」と呼ばれ日本経済の礎を築いた五代は、明治18年(1885)東京築地の別邸で50歳の生涯を閉じました。

当初生誕地近くの長田陸橋に建てられた坂上政克作の五代像は、昭和56年(1981)に鹿児島県産業会館や多くの銀行の本支店が集まる現在の位置に移設されました。殖産興業と富国を目指し、「赤心」(嘘いつわりのない心)を持ち続け、幕末維新を駆け抜けた五代、彼なら今後の日本のビジョンと具体策をどのように描くでしょうか。

(文・佐々木幸男 維新ふるさと館副館長兼歴史解説員)

維新を歩く

五代は、『三国名勝図会』の執筆者で儒学者でもある秀堯の二男として、天保6年(1836)に鹿児島城下城ヶ谷に生まれました。幼いころから利発であった五代は、20歳で藩の郡方書役となりました。23歳で長崎海軍伝習所に藩から派遣され、伝習所閉所後も長崎に遊学することとなりました。その間、単身で2度上海に渡り、藩命で蒸気船を約4万両で購入しています。長崎での7年間に勝海舟、榎本武揚、高杉晋作、グラバーなどの内外の人物との人脈を作る一方、経済的感覚を磨き、外国の情勢把握に努めました。

慶応元年(1865)羽島港から、薩摩藩英国留学生15人と薩摩藩の使節団4人を乗せた蒸気船がイギリスに向けて密かに出航しました。これは、今後の国づくりについての五代の提言が認められて実現したもので、自身も使節団の副使となっていました。藩に提出した提言書には、実際に上海を見てきた経験や人脈を生かして得た知識・情報をもとに、「殖産興業」により国を富ますという目標を定め、そのために何をすべきかが具体的に示されていました。

五代は、イギリスでは各地の視察を行いながら、政府要人との面談や機械や武器を購入しました。マンチェスターやバーミンガムなどの工業地帯も訪問し、紡績機械も購入しました。帰国後、磯で日本初の洋式紡績所である鹿児島紡績所の操業を開始しました。また、五代は、

【イベント】第1回かごしま折々あそび展 開催

8月6日(土)～9月19日(月・祝)まで、館内あそんでみやんせコーナーにて「第1回かごしま折々あそび展」を開催しました。

むかしあそびの道具の数々や、おはら祭り・曾我どんの傘焼き等の鹿児島の風景をおりがみで表現した展示があり、体験では、鹿児島弁を使ったことばあそびや、島津兜や金魚のおりがみ作成など、皆様楽しんで作っていました。

次の展示会は12月16日(金)～翌年2月5日(日)を予定しています。皆様のお越しをお待ちしております。



【イベント予告】薩摩偉人維新伝心隊による「維新演劇シアター」

史実に創作を織り交ぜた現代風歴史物語を、役者扮する鹿児島ゆかりの偉人たちが、身近にわかりやすく語る「維新演劇シアター」。

この冬はザビエルさんが登場!!
「虎視眈々と令和の鹿児島の観光PRキャラクターの座を狙っているかも?!の巻」



冬の上演スケジュール

【西郷さんザビエルさんの ～ニュースリリース薩摩編～】

2022年11月20日(日)・27日(日)
12月25日(日)
2023年1月1日(日)・8日(日)

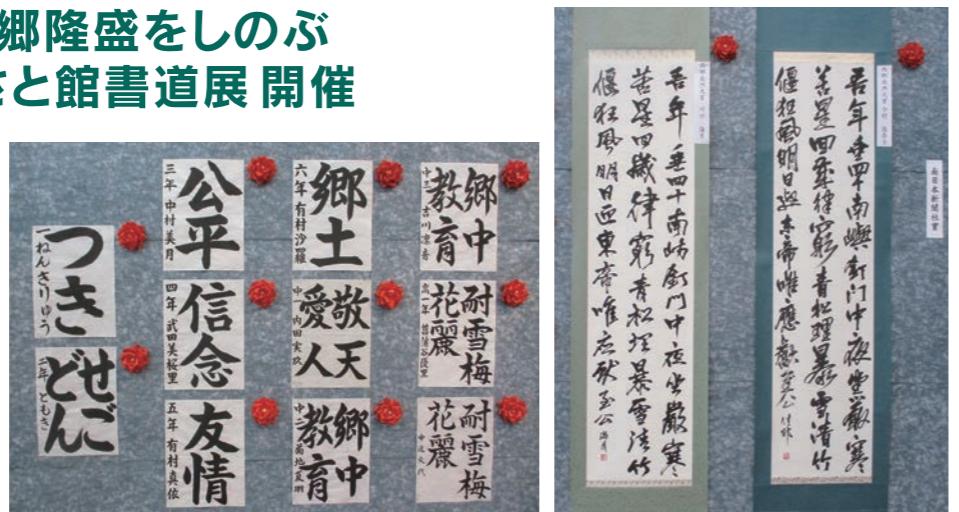
【上演時間】上演日の12:30～13:00(30分間)
【会 場】維新ふるさと館 地下「維新体感ホール」
【観 覧 料】無料(入館料のみ)

【イベント】第15回 西郷隆盛をしのぶ 維新ふるさと館書道展 開催

今年も西郷隆盛が没した9月24日(土)をはさむ、9月23日(金・祝)～10月22日(土)まで、「第15回西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展」を開催しました。

応募総数1,529点の中486点の受賞作品を中心に、全国からの力作が並びました。

西郷南洲大賞 受賞作品▶



【イベント予告】令和4年度 維新ふるさと館歴史シンポジウム 今年も開催

毎年好評の歴史シンポジウムを今年も開催いたします。

今年は、来年の大河ドラマが「どうする家康」となったことから、この頃の鹿児島にテーマを設定します。徳川家康の天下統一前夜、関ヶ原の戦いが迫るころ、鹿児島の島津は肥後加藤対策としての備えを必要としていました。島津氏は自領の防衛をどのように考え、整備し、領国支配をすすめようとしていたのでしょうか。ぜひ皆様ふるってご応募ください。



▲昨年度の様子

テーマ【家康の天下統一、島津はどうする】

【日 時】2022年12月11日(日)13時30分～16時30分

【会 場】サンエールかごしま(入場無料)

【定 員】200名(事前申込み)※応募多数の場合は抽選

【講 師】講演1／三木 靖氏(鹿児島国際大学名誉教授)

講演2／尾口 義男氏(鹿児島県史料編さん委員)

【シンポジスト】肥後 秀昭氏(維新ふるさと館特別顧問)

【進 行】佐々木 幸男(維新ふるさと館副館長兼歴史解説員)

【イベント予告】維新ふるさと館 歴史講座② 開講決定!

来る11月25日(金)・26日(土)に、歴史講座「島津斉彬が夢見た日本の近代化」を開催します。

薩摩の近代化のキーマン、「島津斉彬」にスポットをあて、今年副館長兼歴史解説員に就任した、佐々木先生が解説します。鹿児島の歴史をもっと知りたい方! 参加をお待ちしています。



西郷さんと「書」にまつわるお話を聞いてきました!

西郷南洲顕彰館



学芸員 糸野陽子さん

西郷さんは当時も大変人気があったため、行った先々で書いてくださいとよく頼まれて、そのお人柄から、それに応えて書いて差し上げていました。西郷さんの書とされるものが現代も多く残っていると教えてくださったのは鹿児島市西郷南洲顕彰館の学芸員 糸野陽子さんです。

真筆の漢詩の作品の前で西郷さんの書のリズムが読み取れることも教えてください、糸野さんのお話を聞いて

いると精魂こめて紙の上で筆を走らせる西郷さんの様子が目に浮かぶようでした。

西郷南洲顕彰館で皆さんも是非西郷さんの書のパワーに触れてみてください。

【開館時間】9:00～17:00 【入館料】一般:200円、小中学生:100円

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

【住所】鹿児島市上竜尾町2-1(南州公園内) [TEL](tel:099-247-1100)099-247-1100